

部分隔離の新工法

小川テック コストも2割安

石綿を防ぐ

豊田通商子会社の小川テック（東京・江東、井上隆司社長）は建物内などのアスベスト（石綿）を安く簡単に除去できる新施工法を開発した。除

去工事の際に部屋全体に隔離処置を施す必要があったが、新工法では対象個所の近辺を部分的に隔離するだけで済み、コストを二―三割抑えられた。新施工法「ふうじろう」は断熱工事などのミヤデラ（東京・品川、宮寺力也社長）と協力して開発した。

建物の天井・壁・はりに吹き付けられた石綿が露出している部分から約三十センチあたりにフ

ィルムを張り石綿を密閉した状態をつくる。フィルムには密閉空間の外側から作業員が腕を通せるグローブが付いており、作業員は密閉の外から作業する。取り除いた石綿はフィルムに付けられた収納袋に落ちるよう形状を工夫、負圧除じん装置も備え密閉空間外に飛散しないようにした。

石綿除去作業の現場では、露出している部分が室内のごく一部であっても部屋全体を密閉隔離することが多い。小川テックはフィルム材質や装置配置の工夫などでコンパクトな部分隔離方式を実用化した。除去費を抑えられるほか、対象となる工場や倉庫、店舗などの業務中断も短くて済む。作業員の安全確保や着衣も簡便になるといふ。

除去費の目安は、石綿の吹き付け面積が百平方メートル以下の部屋の場合で約百万円という。第一弾として東京都杉並区のマンションのポンプ室向けに実施。来年度は二十億円の施工規模を目指す。